

幼兒教育

第二十二卷
第一一號

大正十一年一月十五日發行

フレーベル教育の一面觀

高師教授 乙 竹 岩 造

フレーベルの教育思想には、取り出して篤と眺むべき色々の考へが含まれてゐるが、茲に其の一つを云ふと、さまざまの事相の間には、調和があり、統一があつて、進歩するものである、と云ふ考へである。之は、氏の活動主義、樂天主義の教育意見の生れ出した源泉であつて子供を教養するにしても、個々の事實其物よりは、其の事實の間の關係を主とすべく、教師や保母が子供を導くにしても、子供其れ自身と其の學ぶ所のものとの間の眞の親和力が大事である。又將來學ぶ所のものと過去に經驗した所のものと、本統によく關係せしむることが大事であるとした點である。即ち眞の意味廣い意味に於ての理解の中樞といふ事を重んじた點である。

之を近頃の教育傾向に照し合せて考へて見ると、今日の教育上の傾向の一つは、子供に其の當時の狀態に適應せしめ、其の現時の要求を満足せしめる、といふ點である。之は彼等が大人になつた時の準備といふ事を専ら重んじた考へに較らべると、大分違つた事のやうであるが、それならば其の時々の子供の生活を満足せしめさへすれば、將來の事は考へずとも、それで教養の目的が達せられるのかと云ふと、さうではないのであつて、子供の當時の必要を満足せしめ、其の現在の境遇に適應せしむる事が、やがて彼等が大人となつて、その要求を満足せしめ、その境遇に適應し、大人として生活を完うする所以の眞の道になる、といふ微妙な點があるからである。

例へば、幼児が草を摘み、花をいぢり、之を眺め、之を撫でる、といふ事が、他日彼等が學校兒童として、理科を學び、自然を研究するといふ事の眞の素地となるのである。さう云ふ素地を養ふ事無しに、理科を學ばせようとして、學校で如何に骨を折つても、恐らく眞の學習とはならず、眞の教育とはならぬであらう。此の關係は、廣く生理的、心理的、道德的、とあらゆる方面に亙つてさうである。最も、是等三方面の間には、調和があり、統一があるので、必ずしも別々な働きではないが、試みに、別けて考へて見ると、それぞれの方面に於て、矢張さうである。例へば、幼時の養護は何故に大切であるかといふに、幼児として健康な、動的な、優美な、器用な身體は、學校兒童として強壯な、活潑な、調節のよくとれた、熟練な體となり、その强健な活潑な調節のよくとれた、熟練な兒童の身體は、將來大人となつて實際生活に立つに當つて、丈夫な、自由自在によく利く良い體を持つて、生活に活動する所以のものとなるからである。知識に於てもその通りで、幼兒として純眞な、可愛い、事理を聽分る心の働きは、兒童として眞面目な、敏感な、好學心に富んだもの

となり、その眞面目な、敏感な、好學心に富んだ兒童の心は、大人として眞摯な、能感な、研究心に富んだ心の働として働くのである。徳性に於ても、亦元より其の通りであつて、幼時に培はれ養はれた所の、極く素直な、思ひやりのある、優しい心根は、正直な友達仲のよい、同情に富んだ兒童の心情となり、それが更らに長じて、情誼に厚く、友(人)情に富み、他人とよく共同して國家社會に盡す性格の成人となるのである。殊にこの心情の培養が最も大事な事は、人間の品性といふものは、決して一朝一夕で出来るものではなく、却て極く小さい時から種々の場合に於てのあらゆる一舉一動がつもり積もつて、我々の性質品性を形作るものであるからである。之がフレーベルの考への一つ重要根柢であつたのである。

フレーベルのこの根柢は只深い確信のもとに立てられたのであつて詳しい理論があつたのでは無いが、其の後發達して來た所の心理學上の研究は、この點を説明するに光明を投げた。神經系統の作用に就いての説明の如きそれである。即ち、我々の思想行爲といふものは、縦合一度の考へ、一度の行ひで

も、それは神経系統の上にある印象を残さずには濟まない。ちようど蓄音機のレコードのやうに、又は書かれた記録や書物のやうに、消えない何等かのしるしをそこに留めるのである。そして其れが、我々の衣食住、運営行動の萬端にわたつてさうであつて、我々の日常の生活が、かういふ風に積り積つて、品性となるのである。品性は決して一擧にして出來上るものでないのは、之がためである。むしろ人間の一生は、生涯かゝつて書きあげる一冊の書物の如きものであらう。ペンやインキを通して紙の上に書くのではないが、思想や行爲でもつて、直接に神経系統の上に書いてゐるのである。ペンやインキで紙の上に書いた文字は、消せば消えもしやうが思想や行爲で神経系統の上に書きとめられた記録は、それを消すのが中々むづかしい。習慣を改むる事の非常に困難なのは、乃ち之を證明してゐるでは無いか。消してしまつたと思つて居つても、どうかすると、又表れる事さへ、少くないのである。之が所謂習慣の心理である。さて性質や品性はかくの如くにして形成せらるると云ふことは、何んでもない事のやうに思はれるが、それが一生の幸不幸、事業の成功失敗を

決定し、人間一生の運命を築き上げるものだと思へば、實に大事な事である。佛者が地獄極樂は此の世にあると云ひ、アメリカのジェームス教授が、後の世の地獄よりはこの世で我々が自ら紡ぎつゝある運命こそ恐いものである、と云つて居るのは、意味深長な言葉である。それは兎に角、フレーベルの考へが、心理學的にも、その根據が證明されたのは、面白い事である。

この考へこそ、幼時教育の必要を雄辯に物語つてゐるものではなからうか。父兄をして、家庭教育の大切さを痛感せしめずには置かないと同時に、幼児の教育に従事する人々に、保育事業の使命の重さと強さを自覺せしめずには置かぬであらう。昔から『三つ兒の魂百までも』とはよく云はれた諺であるが、然かし決して魂だけではない、智性に於ても、徳性に於ても、將た又身體の上に於ても、ひつくるめて云へば、我々の生涯に於ける思想行爲の全部に亙つて、幼時は實に一生の素地であり、幼時の教育は正に生涯の發達の基礎である。智識其物、技藝其物は、後年になつてもつけ加へる事は出來るけれども、その素力たる心の働き、身の働き、即ち智識技藝を

の外一切の環境に對するその心持ち、その態度に至つては、これは早い時から養はなければ、後から附加へることは仲々むづかしいし改める事は猶更むづかしい。後になつて修復する事が必ずしも出来ないわけではないけれども、然かし修繕したものは、初めからよくこしらへたものに較ぶべきもない事は、我々日常使ふ器物に於てもさうであつて今更ら言ふまでも無い所である。仕上げを重んじて、素地を輕んずるのは、人間の近視眼的弱點であつて、どうし

米國に於ける母性保護法案

毎日の新聞を注意して讀まれる方々は必ず御氣づきの事と思ひますが、舊臘十一月二十三日の各新聞に、「米國大統領ハーディング氏が母性教育補助の爲め六百萬弗を支出する旨を母性保護法案に署名した」といふ事が掲載されてありました。之は、兒童保護の聲の激しい今日、誠に興味深い報知と思ひますから、この母性保護法案といふのは如何なるものであるか、又序でに最近の米國に於ける母性保護、

てもほんどうに良いものは、素地から仕上げまで、充分に注意を加へて造り上げられたものであらう。この意味に於て我々は、幼兒教育の尊さをしみじみと感ずるものである。世の中が開ければ開ける程、教育の道が進めば進む程、保育事業の使命は益々その重大さを加へるであらう。そして、早くも、この點に著眼したフレーベルの考は、幾度となく振り回つて、篤と眺めらるべき意義と價値を有つてゐるやうに思はれる。

内務省社會課囑託

生 江 孝 之

兒童保護等の諸事業の状態を一寸述べて見ようと思ひます。

一九一八年頃から、米國には、政府が議會に提案した母性保護法といふものがあります。今述べました萬朝の電報によれば、この長年の懸案であつた母性保護案が最近通過したものである事が、明らかになりました。

此の母性保護法は、もと／＼米國の兒童局の議案